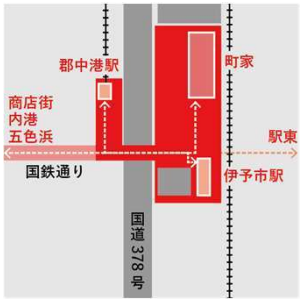
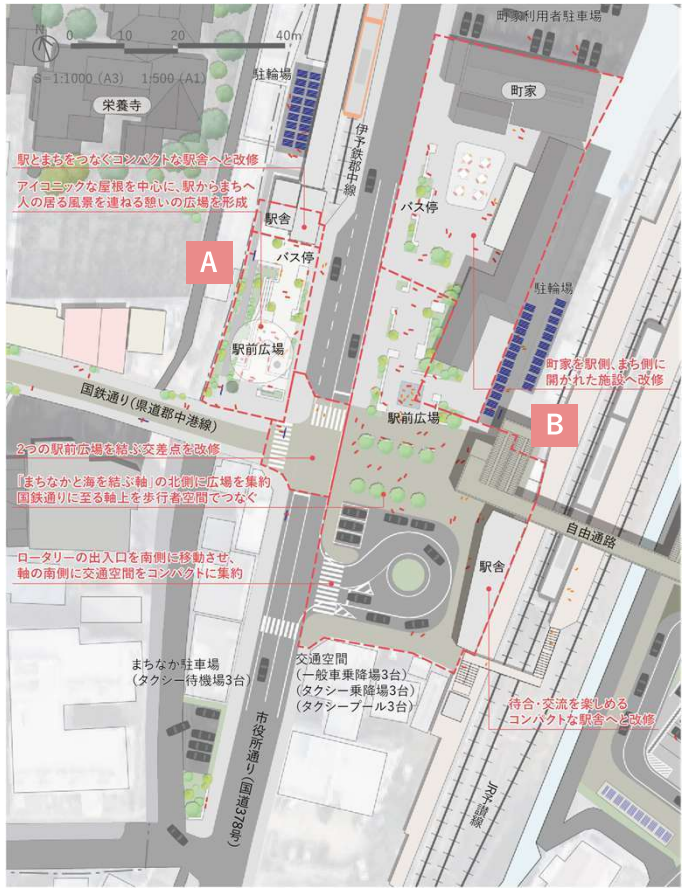
4-3　ステップ❶：JR伊予市駅周辺のまちなか拠点形成

ステップ❶
まちの玄関口であるJR伊予市駅周辺を、施設の連携によりまちなか回遊の拠点に変えていく

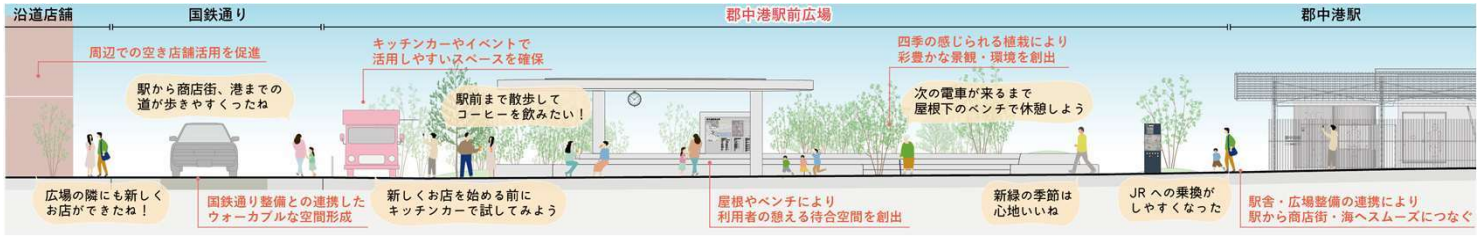
- JR伊予市駅周辺は2駅が近接する交通拠点です。
- WSで地域のみなさんと議論した郡中港駅前広場は、市と伊予鉄の連携により、まちの待合場所、まちなか回遊の拠点として再整備が進められています。
- 今後はJR伊予市駅周辺を、西口広場の再整備や町家との連携を含めて、地域のみなさん、関係者と協議しながら、まちなか回遊の拠点形成に向けて検討していきます。



JR伊予市駅周辺のまちなか回遊拠点の形成



A　郡中港駅前広場（令和8年7月竣工予定、伊予鉄道・愛媛県と協働）



■市民参加のまちづくりのパイロットプロジェクト

- 令和5～6年度のWSにて、広場の役割や整備後の利活用の議論を重ねながら検討した広場です。
- 関係事業者と協議しながら、隣接する伊予鉄道の駅舎、県管理の歩道と一体整備を目指しています。

■『郡中の玄関口』となる憩いの広場

- 駅・広場全体が待合時間を過ごす場となり、駅からまちへ人の居る風景を連ねる拠点となります。
- アイコニックな屋根を中心に、通勤通学の利用者や来街者が憩える場の創出を図ります。

模型による設計検討

整備イメージ（実施設計時点）

B　JR伊予市駅 駅前広場・駅舎

■「まちなかと海を結ぶ軸」を形成する駅前広場

- 令和５年度に交通計画・デザインパターンが行われ、回遊性向上を図る「まちなかと海を結ぶ軸」の形成に向けた空間再編を検討しています。
- ロータリーの出入口を南側に移動させ、軸の南側に必要な交通機能・容量をみたす交通空間をコンパクトに集約することで、国鉄通りに至る軸上を歩行者空間でつなぐことを目指します。
- 軸の北側に広場をまとめることで、隣接する町家と連携した活用を図ります。

■駅舎・町家と連携した回遊拠点の創出

- 通勤通学の利用者が待合時間を過ごし、交流を楽しむことのできる駅舎への改修を検討します。
- 駅前広場・駅舎整備に合わせ、町家を駅側、まち側により開かれた、連携した施設へと改修し、2駅周辺の滞留空間との一体的な整備を検討します。
- JR四国や町家の管理者等の関係事業者と協議・調整を図ります。

画像出典：とさぶし 地域を巡る駅旅！中村・宿毛線
学生が待合時間を過ごす駅のイメージ（四万十市）

隣接する施設と連携した交流広場のイメージ（周南市）